

各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

昭和木材 株式会社 旭川工場と 旭川銘木市でOJT



【日高北部森林管理署】

令和5年1月26日(木)～27日(金)に、昭和木材株式会社旭川工場と旭川林業会館で開催された銘木市で日高北部森林管理署職員9名のOJT(職場内訓練)を行いました。昭和木材(株)旭川工場では国産材(2～3割)、外国産材(7～8割)が取り扱われており、建築用材や内装用材、家具等がつくられています。

これらの製品を原木(丸太)から加工するのですが、原木が手に入ったらすぐに使えるわけではなく、2年ほどかけて乾燥させる必要があります。

そのため、現在は輸入されていないロシア産材も原木のまま残っていました。

外で自然乾燥をしても雨や雪で濡れてしまうのではないかと思います、問題ありません。雨雪で濡れて乾く、というのも自然乾燥の重要な工程のようです。今回の見学では通常業務の中で見る現場とは一味違い、伐られた後の木がどのように売られ、どのように製品になっていくのかを見られるよい機会となりました。

木育ひろば inチ・カ・ホ



【森林整備部 技術普及課】

令和5年1月21日(土)～22日(日)に、札幌駅前通地下歩行空間北3条交差点広場にて、北海道、公益社団法人北海道森と緑の会、北海道森林管理局が主催する、「木育ひろば in チ・カ・ホ」が開催され、2日間で819人ももの来場者があり大盛況でした。

北海道森林管理局は、国有林の紹介パネルを展示するとともにTVモニターを利用した国有林や森林・林業に関する映像による紹介を行ったほか、木の工作プログラムを実施するブースを出展し、1日に約100名がブースを訪れました。

そのほか木育マイスターによる木育ワークショップ、様々な出展団体による各種木工体験や大画面で森林や林業に関する映像を流すなど、森林づくりや木づかい、木育の取組にふれる絶好の機会を多くの市民・道民の皆様に提供することができました。

「狩猟者のための 森林講座」 を開催しました



【十勝西部森林管理署】

令和5年1月31日(火)18時30分から、帯広市十勝プラザにおいて、帯広市有害鳥獣駆除説明会の場をお借りし北海道猟友会帯広支部の会員100名を対象として、「狩猟者のための森林講座」を開催しました。

当日は、月安(つきやす)帯広猟友会支部長・帯広駆除会会長の挨拶の後、保全課 藤本(ふじもと)野生鳥獣管理指導官から「森林管理者からのお願い～狩猟の安全確保」についての講話を行いました。

また、狩猟許可時に配布した銃猟立入禁止区域図ダウンロードの方法等について説明し銃猟事故を再度起こさないよう注意喚起をしました。十勝西部森林管理署では清水、帯広、大樹、広尾と管内全ての猟友会支部で有害鳥獣駆除を行っており安全確保に向けた各種取り組みを今後も連携しながら継続していくこととしています。

西紋別支署で スノーモビル・スキー 訓練を実施



【西紋別支署】

令和5年1月13日(金)西紋別支署でスノーモビル・スキー訓練を実施しました。

午前中は座学で安全教育を行いました。また、運搬に使用する車両とトレーラーの接続やスノーモビルの積み卸しの実技訓練を行いました。

午後からは実際に現地での実技訓練です。スノーモビルの基礎的なことや注意点については、当署でスノーモビルの点検・整備を行っている業者さんを講師に招き説明を受けました。スノーモビル訓練後、引き続きスキー訓練を行いました。森林管理署が使用する歩くスキーは「ソンメルスキー」というもので、グレンデスキーとは違ってかかたがスキー板に固定されていないため歩きやすくなっていますが、グレンデスキー経験者でも、ソンメルスキーは苦戦する職員も多いため、グレンデスキーと操作法等が全く違うものとして慣れと練習が必要です。訓練は怪我等アクシデントも無く、無事終わりました。

えりも岬緑化事業70周年を 記念してパネル展示

えりも岬の本格的な緑化事業が始まってから70年、これまでの歴史を振り返り、えりも岬の移り変わりや事業の様子などのパネルを展示します。

砂漠と化したえりも岬

明治以降、開拓の過度な伐採や虫害により「えりも砂漠」と呼ばれるほど荒廃したえりも。

土地特有の強風が赤土を舞い上げ、海を濁らせると、魚が減りきれなくなりました。

風と赤土との戦い

昭和28年から始まった緑化事業は、風から緑化植物を守るための試行錯誤の連続でした。

蘇る大地と海

表土が安定すると、ようやく植林が本格化し、クロマツなどの苗木が植えられました。

緑が戻ることで、海の濁りが改善され、サケ、マスが返ってきました。また、昆布の品質も向上しました。

基幹産業の水産業が復活すると、人も戻り、えりもに活気が戻りました。

次の世代につなぐ

林野庁は、地元の方々とともに、えりも岬の緑化事業を進めてきました。

これからも、まだ若いえりもの森を地元の方々とともに育てていきます。

そして、たくさんの人々がこの事業に捧げた情熱と成功に至るまでの苦勞を、また、森の大切さを、次世代へ伝える取組も続けていきます。

1 展示場所

北海道森林管理局内
ウッドディーホール1階

2 展示期間

令和5年2月17日（金曜日）
～3月2日（木曜日）

3 時間

終日10時～15時
（土日祝除く）



詳しくはHPで

冬芽観察 ミニブック

北海道森林管理局では、冬芽の観察用に簡易な「冬芽観察 mini book」を作成しました。

イラストの作成及び編集は北海道森林管理局の職員である平田美紗子が担当しました。

冬芽の観察心得



冬芽とは、「ふゆめ」または「とうが」と読みます。

樹木が、冬を越すために葉や花の蕾が厚い衣や毛皮に包まれ小さく折りたたまれて入っています。

この「冬芽観察 mini book」には、冬芽の観察心得として、あれば良いと思われるルーペやカッターなどの「道具」、「用語解説」、「冬芽の形」や「芽の付き方」、「葉痕」の違いについても、説明が掲載されているので、初心者にもわかりやすい解説書となっています。



詳しくはHPで

今月の表紙

今月の木 「ミスナラ」

今月はミスナラの冬芽のイラストを表紙の月数字の横に掲載しました。

五角錐形で先端は尖っています。



もり
広報 「北の森林 国有林」2月号
発行 林野庁北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森
3条7丁目70

IP電話 050-3160-6300

電話 011-622-5213

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>